

きたはら



令和2年4月30日
練馬区立北原小学校
学 校 通 信
NO. 640号

教育目標

◎よく考える子供 ○思いやりのある子供 ○明るくたくましい子供

校長 岩井 一雄

長期に亘る学校臨時休業へのご協力に、心から感謝申し上げます。

さて、5月7日(木)・8日(金)は臨時休業日の延長が決まりましたが、その後の学校再開の見通しをお示しできないままに月末を迎えました。現在、練馬区では国や都の動向を見極めている状態にあり、学校単独で5月11日(月)以降の対応について、明言できない状況です。本日以降、または国の判断が大型連休中までずれこむ場合には連休明けに、学校連絡メール、学校ホームページで5月11日(月)以降の対応についてお知らせいたします。

学校再開の後には、子供たちの命と健康を守ること、子供たちの心のよりどころとなる学級をつくっていくこと、初等教育の原点に立ち戻り基礎・基本の定着を第一義として着実に進めることが大切となります。そのために、行事の中止や延期、長期休業の短縮等、前例のない事態には前例のない対処を行わなければならないことも予想されますが、北原の子供たちのよき成長のために意を尽くしていくという点において、大人が心を合わせて進んでいくことをお願いしたいと思います。

さて、臨時休業が続く北原小学校。校庭には、雨水の流れた跡がくっきりと残っています。よく見ると、流れる水のはたらきによって土が流されて側溝に運ばれ、堆積している様子も見て取れます。自然界の小さな作用が校庭のあちこちで見られることに、気づかされました。改めて理科の教科書を見ると、5年生の「流れる水のはたらきと土地の変化」の単元で、「流水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり、堆積させたりする働きがあること」を学ぶことになっています。文字で記されると何のことだかわかりにくい事柄も、実際にその様相を目にすると「なるほど。そうだったのか。」と実感できることが多いのです。コロナウイルス感染症が収束し、再び学校が子供たちの学びの場となった日には、一つ一つの学びが「わかった。おもしろい。」と思える授業、学びを振り返り、生活に生かす力を育てる授業、生きて働くことをめざして授業づくりを進めてまいります。



保健室前の校庭にできた雨水の流れの跡